

東北大学とソフトバンクによる共創研究所の設立に関する調印式および記者説明会を行いました（2026/7/27）

テーマ：産学連携、防災 AI

会 場：ソフトバンク株式会社（東京都港区） Zoom でも配信

URL： <https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2026/07/press20260727-01-softbank.html>

2026 年 7 月 27 日、ソフトバンク株式会社（以下「ソフトバンク」）で共創研究所の設立に関する調印式および記者説明会を行いました。

東北大学とソフトバンクは「ソフトバンク・東北大学 AI for Disaster Science 共創研究所」を、2026 年 8 月 1 日に災害科学国際研究所内に設立します。この共創研究所は、地球観測や社会動態のデータ、物理シミュレーションを組み合わせた災害デジタルツインと、防災に特化した AI（人工知能）を融合させることで、地震や津波、洪水、噴火などにおけるハザード・リスクの予測や、災害の影響から素早く立ち直るための対応策に関する仮説生成・検証などが可能な「AI for Disaster Science 基盤」（以下「AI4DS 基盤」）の研究開発および社会実装を推進します。

調印式と記者説明会には、ソフトバンクの丹波廣寅 常務執行役員と浅沼邦光 次世代事業開発本部 本部長、東北大学の小田喜夫 副理事 産学連携担当と当研究所の越村俊一 所長（災害ジオインフォマティクス研究分野）が出席し、共創研究所の概要を説明した後、丹波常務と越村所長が契約書に調印し契約締結となりました。

設置期間は 2029 年 7 月までの 3 年間で、両者の知見や技術を基に、防災に特化した正確で信頼性の高い大規模言語モデル（LLM）や視覚言語モデル（VLM）、AI エージェントなどの防災 AI の研究開発を進めます。さらに、過去の災害記録や対応記録、失敗・教訓を学習した防災 AI と、東北大学が SIP プログラムで研究開発している災害デジタルツインを融合させた AI4DS 基盤の研究開発を進めていきます。2026 年度は自治体や行政機関などと連携して、地震や津波、火山災害などを想定し、AI4DS 基盤の有効性を検証する実証実験を実施する予定です。将来的には、防災分野における AI 活用のエコシステムを構築するとともに、国内外の防災・減災に貢献する研究開発・社会実装の基盤へと発展させ、災害に強い社会の実現を目指していきます。





共創研究所の概要を説明する越村所長



契約書に調印する丹波常務と越村所長



契約を締結し握手する丹波常務と越村所長



出席者全員で記念撮影
(左から浅沼本部長、丹波常務、小田副理事、越村所長)